

平成18年度病害虫発生予察注意報第2号

平成18年5月11日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

カメムシ類の発生が多くすでにナシ園への飛来が認められている。今後、気温が高まるにつれて本虫の活動が活発になることが予想されるため、発生がみられた場合は防除を徹底する必要がある。

病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生時期 やや早い
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯におけるカメムシ類の誘殺数は、平年と比較して多い。特にチャバネアオカメムシ、クサギカメムシの誘殺数が、カメムシ類の被害が多発した平成16年に次いで多い地点が認められている(表1)。
 - (2) 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年と比較して多い。また、果樹園付近に設置したトラップにおける誘殺数が増加しており、ナシ園への飛来が懸念される(表2)。
 - (3) 5月上旬現在、県東中部地区のナシ園では、カメムシ類の飛来が確認されている。
 - (4) 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されている。今後、夜温が高まるとカメムシ類の活動が活発になることが予想される。
- 6 防除上注意すべき事項
- (1) 被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う。特に、多発年に早期被害を受けた地域では注意する。
 - (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。また、移動性が高いため、広域的な防除に努める。
 - (3) 園内でカメムシ類の発生がみられた場合は早急に防除を行う。また、ナシの有袋栽培では小袋かけを早く実施する。
 - (4) ナシの防除では、ジノテフラン水溶剤、アクタラ顆粒水溶剤はコナカイガラムシ類、アブラムシ類にも農薬登録があり、カメムシ類との同時防除が可能である。
 - (5) アグロスリン水和剤、MR・ジョーカー水和剤は、いずれも合成ピレスロイド系殺虫剤である。合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類およびハダニ類の発生を助長するので、必要最小限の使用にとどめる。
 - (6) 各樹種の防除薬剤は表3を参考にする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業等者の安全の確保に努める。

表 1 - 1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数（頭）

| 月・旬 | 八頭町 | | 鳥取市河原町 | | 東郷町 | | 北栄町 | |
|-----|-----|------|--------|------|-----|-----|-----|------|
| | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 |
| 4月計 | 1 | 1.1 | - | - | 0 | 0.0 | 0 | 1.8 |
| 5・上 | 385 | 48.8 | 1 | 5.0 | 1 | 0.8 | 70 | 47.6 |
| ・中 | | 59.5 | | 9.4 | | 0.6 | | 7.8 |
| ・下 | | 43.1 | | 50.6 | | 7.4 | | 20.4 |

表 1 - 2 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数（頭）

| 月・旬 | 八頭町 | | 鳥取市河原町 | | 東郷町 | | 北栄町 | |
|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 |
| 4月計 | 0 | 0.7 | - | - | 1 | 0.2 | 0 | 0.0 |
| 5・上 | 41 | 0.9 | 8 | 5.1 | 0 | 0.1 | 2 | 0.3 |
| ・中 | | 2.2 | | 2.2 | | 0.0 | | 0.0 |
| ・下 | | 5.0 | | 2.5 | | 0.0 | | 0.4 |

表 2 八頭町における集合フェロモントラップのチャバネアオカメムシ誘殺数（頭）

| 月・旬 | * | | * | |
|-----|----|------|----|------|
| | 本年 | 平年** | 本年 | 平年** |
| 4月計 | 4 | 4.6 | 0 | 0.2 |
| 5・上 | 44 | 13.9 | 31 | 1.8 |
| ・中 | | 19.0 | | 12.2 |
| ・下 | | 23.0 | | 18.6 |

* ... はヒノキ林内、 は と果樹園との中間点の水田畦畔に設置

**...平年値： 平成 1 1 ~ 1 7 年、 平成 1 2 ~ 1 7 年の平均値

表 3 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

| 作物 | 薬剤名 | 希釈 倍数 | 使用 時期 | 本剤の 使用回数 | 薬剤の系統 |
|-------------|----------------------------|---------------------|-----------|-------------|-----------|
| ナシ | スプラサイド水和剤 | 1,500 | 有袋 7 日前 | 3 回 | 有機リン系 |
| | | | 無袋 4 5 日前 | 2 回 | |
| | ジノテフラン水溶剤 (アルパリッ又はスタール) | 2,000 | 前日 | 3 回 | ネオニコチノイド系 |
| | アクタラ顆粒水溶剤 | 2,000 | 前日 | 3 回 | ネオニコチノイド系 |
| | アグロスリン水和剤 | 1,000 ~ 2,000 | 前日 | 3 回 | 合ピレ系 |
| MR・ジョーカー水和剤 | 2,000 | 1 4 日前 | 2 回 | 合ピレ系 | |
| リンゴ | スミチオン水和剤 40 | 800 ~ 1,000 | 3 0 日前 | 3 回 | 有機リン系 |
| | MR・ジョーカー水和剤 | 2,000 | 1 4 日前 | 2 回 | 合ピレ系 |
| モモ | スミチオン水和剤 40 | 800 ~ 1,000 | 3 日前 | 6 回 | 有機リン系 |
| | アグロスリン水和剤 | 2,000 | 7 日前 | 5 回 | 合ピレ系 |

*農薬の登録内容は平成 1 8 年 5 月 1 日現在